

平成26年度 自己評価及び学校関係者評価

兵庫県立氷上西高等学校

学校教育目標	②生徒一人一人の的確な実態把握と生徒理解に努め、「挨拶」・「時間厳守」・「清掃」の生活三原則を徹底させる中で基本的な生活習慣の確立と社会性の育成を図る。 ③広報活動を積極的に展開して地域住民の理解を得るとともに、開かれた学校づくりを推進する。 ④地域の諸団体や小中学校・こども園・大学等との連携を深め、まちづくり活動を推進する。 ⑤連携型中高一貫教育校として、連携中学校とより一層の系統的・発展的な学びづくりを推進する。
1 教育目標 生徒一人一人の個性と能力の伸長を図り、人間としての誇りと豊かな心を育み、活力あるたくましい生徒を育成する。	
2 教育方針 ①学校・保護者・地域との連携を密にし、地域に根ざし地域に信頼される魅力ある学校づくり、特色ある学校づくりを推進する。 ②日常生活におけるさまざまな教育活動を通じて、自主・自律の精神と豊かな感性を育み、創造力と豊かな公德心を培う。 ③温かさと厳しさの調和した人間的なふれあいに基づく生活指導を通して、生徒一人一人の生き方に関わる主体的な進路選択能力を培う。 ④人と人との絆を強め、公共心と福祉の心を育み、社会の変化に主体的に対応できる能力と生涯学習社会をたくましく生き抜く力を培う。 ⑤自国や諸外国の歴史・文化・伝統などについての理解を深め、国際社会と共生社会に生きる人間としての在り方や生き方を考えさせる。	
本年度重点目標	継続的目標
3 本年度重点目標 ＜一人一人の可能性を最大限に伸ばす教育活動の推進＞－ステップフォワードを目指して－ ①小規模校の特性を活かした教育内容や指導方法を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図る。	4 継続的目標 ①体験を重んじ郷土理解を推進する「高校生ふるさと貢献事業」「高校生就業体験事業」「総合的な学習の時間」などの教育活動を通して、「心の教育」の充実と「共に生きる心」を育む。 ②進路実現のための取組や資格取得の機会を強化するとともに、地域と連携した教育活動や生徒会活動・部活動などを通して、母校と自分に誇りを持つ生徒を育成する。 ③「教育の専門家」としての自覚を強く持ち、一步踏み込んだ信頼関係に満ちた師弟関係を構築し、「教え、諭し、育てる」ことの実践力向上を図る。

学校評価の実施方法についての学校関係者等評価
学校評価について、本校独自の評価項目、実践目標を設定し、その成果をもとに、生徒・保護者へのアンケート、並びに連携中学校2.3年生及びその保護者を対象とした学校評価アンケートを実施し、その結果もふまえて自己評価を行い公表している。項目が細かく設定しすぎではないかとの声もあり、次年度以降項目等については検討を加える。学年での評価項目に関しては、学年を毎年に評価が上っている項目もあり、経年で見ることの大切さと教職員の努力の跡が伺え、さらには生徒の成長が感じられるのでよいという評価もあった。

総合的な学校関係者等評価
<ul style="list-style-type: none"> ・連携型中高一貫教育校としての周知が進んで来たようには感じるが、就職、進学先などの広報に努め、氷上西高校に行きたいという思いを持たせて欲しい。 ・ボランティア活動への積極的な参加は認められるが、強制することによって大人になってからの参加率が落ちるといった話もあるので、あくまでも自らが参加するという姿勢を持たせるようにして欲しい。市島災害ボランティアなど現地に出向き感じたことは大切。その経験を活かして欲しい。 ・連携中学校との連携授業については、学校差があり、その周知には差がある。今年度検討を加えて欲しい。中学生たちは、高校の先生とふれあえることでよく理解できるとも喜んでいる。 ・保護者アンケートでは、昨年度より前向きな意見が多くなったように感じる。厳しい意見はまだあるが、前向きにとらえやって欲しい。 ・人権教育については、小中と教職員が同じ研修の機会を持つようにしている。数年後には小中高がこの地域で1校ずつになるため、小中高での研修会実施を望む。さらに、児童養護施設との連携も図って欲しい。 ・連携型中高一貫教育校として初めての卒業生を出し、これからの動向が非常に大切になってくる。「輝く地域の星となれ～一人一人が主人公～」のスローガンのもと、地域に根ざした教育の発展に努めていく。

＜評価基準＞ 4・・・よくできた 3・・・できた 2・・・余りできなかった 1・・・できなかった

領域	評価観点	評価項目	実践目標（チェックポイント）	成果及び課題	項目	中間評価	最終評価
総務部	特色ある魅力ある学校づくり	中学校等の連携	●連携中学校である青垣・氷上2中学校と行事やボランティア活動、部活動等での交流をさらに発展させるとともに、授業を通じて、教科間の連携を図る。	○時間割の関係から、氷上中学校との連携授業ができていない。今後、中学校からの要望がある情報の授業での連携ができないか、今後検討したい。	1	2.8	2.7
		地域、行政機関との連携強化	●「丹波若者塾」において「関大佐治スタジオ」との連携を通じて、地域の行事に積極的に参加するなど、地域に根ざした活動に協力し支援を行う。	○例年と同様、関大佐治スタジオと連携して、道の駅の夕べや愛宕祭りに参加した。また今年度は、佐治川祭りの準備手伝いなど新しい取り組みも行った。	2	3.1	3.4
		高校生ふるさと貢献事業	●「福祉教育講座」、「地域づくり講座」など地域の人材を有効に活用した講座を実施し、地域との交流・連携を図る。	○手話体験や介護体験、パラグライダー実習など生徒は積極的に取り組めた。	3	3.1	3.2
		ボランティア活動の推進	●「ちいき清掃ボランティア」、インターアクト部の活動を通して、地域や行政機関、連携中学校と協力しながら、ボランティア活動への意識の高揚を図る。	○例年の活動に加え、クラスの各委員に参加を呼びかけ、平成たんば塾やチャリティー絵画展の準備など、多くのボランティア活動に積極的に参加できた。	4	3.4	3.7
		P T Aとの連携強化	●理事会を支援し、各行事への参加協力を促し、P T A会報作成など、運営部・研修部との活動がスムーズに進むように協力体制を強化する。	○中高連携芸術鑑賞会をはじめ、清掃ボランティアや交通立ち当番など、多くの支援をいただいた。	5	3.1	3.1
		広報活動の充実強化	●「スクールニュース」を月1回発行するとともに、内容の充実を図る。ホームページの更新と内容の充実を積極的に行い、リアルタイムな情報発信に努める。	○スクールニュースやホームページでは写真を多くするなど、より学校生活が伝わりやすいように工夫した。	6	3.6	3.7
		学校行事への地域住民等の参加の推進	●体育大会、文化祭、オープンハイスクールなどの行事において、HP やポスター等で情報を発信し、保護者や地域住民の参加を促進する。	○地元自治会（きらく館）との連絡を密にして、芸術鑑賞会や体育大会への参加を呼びかけた。芸術鑑賞会には自治会の方にも参加いただいた。	7	3	3.0
		防災教育の推進	●防災リレーや学年別の訓練を通じて、防災意識を高め実践力を伸ばす。各訓練や1.17の追悼行事などを通して、大震災等の教訓を生かす。	○例年通りの訓練であった。地元自治会との共同防災避難訓練や防災教育HRなど、今後内容の充実が必要である。	8	2.6	2.8

領域	評価観点	評価項目	実践目標 (チェックポイント)	成果と課題	項目	中間評価	最終評価
教務部	主体的な学び	学力把握	●各考査後の指名補習を実施し、生徒個々の学力把握と指導方法の改善を行う。	○各考査毎に実施した。生徒個々の学力把握と指導の改善に不可欠である。ただし、生徒の受講姿勢の指導には改善が必要である。	9	3.2	2.9
		分かる授業	●授業の効果的なパーティション化を行う。	○時間的な制約は否めないが、グループワークの導入が効果的である。	10	2.8	2.9
	効果的な授業	言語活動の充実	●授業の中にペアワーク、グループワークを取り入れて言語活動の端緒とする。	○進度が遅れがちにはなるが、学習効果は上がるので、シラバスに組み込んで計画的に実施する必要がある。	11	2.6	2.8
		道徳教育の実践	●すべての教育活動において、モラルの向上とユニバーサル化を図る。	○年間2回の道徳HRは実施し、モラルの向上を図った。今後も指導の工夫が必要である。	12	2.3	2.4
		指導と評価の一体化	●シラバス、生徒学習状況調査、生徒授業評価をもとに生徒の学ぶ意欲につながる指導と評価を行う。	○生徒の学ぶ意欲につながる指導方法と評価基準の工夫が更に求められる。	13	2.4	2.5
地域社会との連携	教育効果の向上	●小・中・地域との連携により、教育効果を高める。	○生徒が地域社会へ出向き大きな効果を上げているが、本校へ招く機会が少ない。	14	2.6	2.7	

領域	評価観点	評価項目	実践目標 (チェックポイント)	成果と課題	項目	中間評価	最終評価
生徒指導部	生活習慣の確立	問題行動の克服	●問題行動の未然防止の指導を徹底する。校内校外の巡回指導を徹底する。	○1年生の授業中に私語や居眠りが減ったもののまだなくなっていない。巡回指導の徹底を継続。	15	2.2	2.2
		校則の遵守	●学校生活の基本である頭髪や服装の指導を徹底する。 ●遅刻防止のため毎日職員による登校指導を実施する。	○概ね守られているが、徹底指導を継続。 ○職員による朝の立ち番を実施しており、遅刻は減少傾向にある。	16	2.3	2.4
	教育相談	指導援助	●教育相談の充実により悩みを持つ生徒の早期発見と指導援助体制を確立する。 ●教育相談に関する職員研修を実施する。	・充実の傾向にあるが、定期的に教育相談が必要な生徒がいる。 ・生徒へのアプローチを継続。 ・職員研修会を2回実施した。	17	3.2	3.2
	交通安全指導の徹底	交通マナーの遵守	毎月1回PTAと職員が合同で早朝登校指導を実施する。	・PTAとの合同登校指導はよくできた。	18	3	3.2
	特別活動の充実	学校の活性化	●学校行事に積極的に参加させ、連携意識を高める。 ●部活動・HR活動・生徒会各種委員会の活性化を図る。	・体育大会と文化祭は地域と連携した生徒主体の行事となった。 ・運動部に活気がない。ライフル射撃部太鼓部、CCLは活発に活動している。	19	2.7	2.9
	保健衛生	安全教育	●職員対象のAED心肺蘇生法講習会を実施する。 ●生徒を対象にした安全教育を推進する。	・10月に丹波消防署の指導でAED心肺蘇生法講習会を実施した。 ・4月に自転車点検を行った。毎月1回PTAと職員で登校指導を行った。	20	3	3.1
		健康教育	●定期的に保健だよりの発行を行い、生徒が主体的に健康を管理する意識を高める。 ●学校医及び学年・家庭との連携を密にし、必要な生徒に治療を促す。	・定期的な保健だよりの発行はできた。 ・予定通りの諸検査を実施し迅速な保護者への連絡もできた。治療に必要な生徒の勧告と治療もスムーズに行った。	21	3.1	3.2
	環境整備	環境美化	●ゴミの分別意識の向上を図る。 ●毎日の掃除や大掃除の徹底。	・ごみの分別もよくなってきた。 ・毎日の掃除、大掃除は熱心にはない生徒への指導を継続。	22	2.4	2.6

領域	評価観点	評価項目	実践目標 (チェックポイント)	成果と課題	項目	中間評価	最終評価
進路指導部	進路指導体制の充実	進路情報の整備・伝達	●各学年と情報を共有し、計画的に進路ガイダンスを実施する。 ●進路情報を効果的に提供するため、進路閲覧コーナーの整備・充実に努める。 ●保護者懇談会と並行して、進路説明会を実施し、保護者に情報提供するとともに、個別相談に応じる。	○年間HR計画に基づき、学年毎に進路ガイダンスを実施した。また、ファイルを購入し、閲覧コーナーの整理整頓を図った。年度末には、次年度に向けての整理を進めたい。 ○5月のPTA総会後に2,3年生、6月の期末考査前には3年生の保護者を対象とした進路説明会を実施した。いずれも参加者が少なかったため、内容の精選などを図りたい。	23	2.8	3.0
		求人開拓・定着指導	●就職開拓支援員と協力し、新たな求人先を開拓する。 ●本校卒業生の事業所を訪ね、定着を確認し、併せて継続的な求人依頼する。	○今年度求人の新規開拓はしていないが、ハローワークと連携を取り、求人情報を提供してもらっている。 ○定着指導は計画通り実施できた。	24	3.3	3.1
		学力の向上	●学び直しタイム、放課後補習を実施し、進路実現に向けた学習習慣の確立を図る。また、長期休業中も進学補習を実施する。 ●年間計画に基づいた模擬試験を学年ごとに実施し、実力の把握と向上を図る。	○学習習慣の確立に向け、マナトレの有効な活用方法を考察したい。放課後補習・夏期集中講座は、計画通り実施できた。土曜補習は、検定・行事・部活動などの兼ね合いもあり、実施が困難なこともあった。参加者が少ないことも課題であり、次年度の実施方法について早急に検討したい。 ○模擬試験は学年の実態や状況に応じ、適切な時期に実施できた。	25	3.2	3.1
職業観・勤労観の育成	就業体験事業	●2年生全生徒参加のインターンシップ実施により、キャリア教育の充実を図る。	○インターンシップは計画通り実施できた。				

	と進路意識の向上		また就職開拓支援員と協力して、新規事業所の開拓・拡大を図る。 ●外部有識者・卒業生を囲んでの進路座談会により、将来の進路選択に繋げる。	○進路座談会は、OB3名・丹波市より2名お招きし、予定通り実施した。また、2学年の総合的な学習の時間では、丹波ひと大学による夢授業を実施し、地元で活躍する人材の生の声を聞く貴重な機会となった。	26	3.6	3.4
	主体的な進路選択能力の育成	外部進学説明会・就職説明会への主体的参加	●校外の進学説明会、オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。就職希望者には、応募前職場見学を実施する。	○4月に篠山（昭栄広報）、5月には大阪（リクルート）での進学説明会に、それぞれ20～30名の生徒が参加した。また、1月には福知山（昭栄広報）での説明会に1年生7名が参加した。 ○応募前職場見学については、一人1～2社参加した。また、丹波市主催の就職セミナー・企業見学会へも参加した。	27	3.2	3.0

領域	評価観点	評価項目	実践目標（チェックポイント）	成果と課題	項目	中間評価	最終評価
人権教育委員会	人権意識の高揚	人権HR	●人権HRを各学期に1回、計画的に行う。HR実践内容については、各学年で内容を吟味する。	○年間指導計画に基づき、各学年で生徒の状況に応じ、人権HRを実施した。	28	3.1	3.2
		職員研修	●職員研修会を実施し、職員の人権意識の高揚・認識の拡大を図る。	○学年末考査の時期に、丹波市国際交流協会より講師をお招きし、丹波市の外国人の現状と真の国際交流についての研修会を実施した。	29	1.9	2.3
		人権意識の把握	●人権アンケート・人権作文により生徒の人権意識を把握し、指導に繋げる。	○1・2年生の夏期休業課題として人権作文を提出させ、各学年に還元した。優秀な作文については、丹波市の人権作文集『めざめ』に掲載される。 ○人権アンケートについては、今のところ実施できていないので、次年度に向け実施時期や内容を検討したい。	30	2.4	2.3
		諸機関との連携	●外部の関係機関（丹波地区同教・丹波市同教）と連携し、職員の研究と修養に努め、指導に繋げる。	○丹波地区同教中・高部会に参加し、『生徒の自尊感情を高める取り組みについて』というテーマに基づいて、研修を受講し、課題研究発表を行った。	31	3.1	2.8

領域	評価観点	評価項目	実践目標（チェックポイント）	成果と課題	項目	中間評価	最終評価
特別支援教育委員会	支援体制の充実	特別支援教育委員会	特別支援教育委員会を定期的に実施し、状況把握に努め、支援体制の構築を進める。	○毎学期に委員会を実施したが、今後は回数を増やし情報の共有・蓄積・活用を軸に支援体制を強化していきたい。	32	2.6	2.7
		諸機関との連携	外部の関係機関（特別支援学校、医療機関、公的機関など）や学校カウンセラーと連携し、必要な情報や助言を得て指導に生かす。	○氷上特別支援や学校カウンセラーとの連携を進めてきた。またハローワークに職員研修を依頼し、進路面での指導力向上・連携強化に活かした。	33	3.3	3.3
		職員研修	職員研修会を実施し、職員の指導力向上に努める。	○ハローワークから講師を招き、進路指導力向上につなげた。	34	2.4	2.7
		引き継ぎ	サポートファイルや連絡会を通して中学校と連携して一貫した支援、指導を行う。	○中学校訪問、中高連絡会などを通して情報交換は行っている。中から高への段階を踏んだ指導を行いたい。	35	2.7	2.6
		相互理解	生徒指導部や学年団と連携し、生徒間の相互理解を進める。	○人権HRなどを活用して生徒同士がお互いの特性を理解しあえるような環境作りを進める必要がある。	36	2.6	2.6

領域	評価観点	評価項目	実践目標（チェックポイント）	成果と課題	項目	中間評価	最終評価
1学年	基本的な生活習慣の確立	規範意識の向上	あいさつの慣行、ルールへの意識を高める。	挨拶は良くなってきたが、ルールへの意識が低いので、継続して指導していきたい。	37	2.2	2.3
		公共心の育成	校則、時間、期限を守り、主体性を育て、マナーへの意識を高める。	ほとんどの生徒が時間を守るようになった。	38	2.1	2.2
			清掃や分別を確実にやり、責任感を育てる。	きちんと頑張って掃除をする生徒もいるが、積極的にない生徒もおり継続指導が必要。	39	2.1	2.3
	基礎学力の充実	授業尊重態度の育成	欠課、遅刻、中抜け、早退をなくし、授業に集中させる。授業中の活動や板書の書き取りなど積極的に授業に参加させる。予習・復習の大切さを理解させ、基礎学力向上に努める。	授業遅刻が減った。 授業妨害以前に比べて減ってきたが継続指導は必要。	40	2.1	2.2
		課題や提出物の徹底	課題や提出物の期限厳守、取り組み姿勢を育てる。	大半の生徒は、きちんと出せるようになった。	41	2.2	2.2
	互いに思いやる心の育成	自他を尊重する態度の育成	学校生活の中でお互いを理解し、助け合い、個々を尊重する態度を育てる。	お互いを理解し、個々を尊重する態度がまだ不十分であるため継続指導が必要。	42	2.4	2.5
		学校行事や地域貢献活動への積極的参加	学校行事や地域貢献活動などに積極的に参加させ、主体的に取り組ませる。	ほとんどの生徒が協力して、主体的に取り組めた。	43	3.1	3.0
	個に応じた指導	生徒理解	こまめに個人面談などを行い、生徒の状況把握を心がける。	気付いた時に声掛けをしたり、面談をしたりして、状況把握を心掛けた。	44	3	3.0
		自己肯定感の育成	生徒自身に個人の成長や頑張りの過程を	頑張っている生徒への声掛け等を行い、			

	成	理解させ、自信を持たせるよう指導する。	自信を持てるようになってきている生徒が増えた。	45	2.9	2.8
	保護者との連携	三者面談や家庭連絡を通して情報を共有し、連携を深めるよう努める。	学校での情報を家庭と共有し、保護者との連携を深めることができています。	46	3.1	3.1

領域	評価観点	評価項目	実践目標 (チェックポイント)	成果と課題	項目	中間評価	最終評価
2学年	基本的な生活習慣の確立	規範意識の向上	挨拶、服装、言葉遣い、マナー等を身につけさせる。	注意されないといけないことが多い。自ら行うよう指導継続。ネクタイ、リボンをずらしている生徒が多い。敬語が使えない生徒が多く進路に向けて改善させる必要がある。	47	2.5	2.5
		公共心の育成	清掃や分別を確実に実行し、公共心と責任感を育てる。	できているものとそうでないものの差が激しい。授業後すぐに清掃に向かえていないことがある。全員が清掃活動できるように指導したい。	48	2.4	2.4
		生活習慣の確立	校則、時間、期限を守らせ、社会の一員としての責任感を持たせる。	朝遅刻ぎりぎりの生徒が多い。マイペースな生徒が多い。全体的に大きく反れるものは少ない。しかし、全体的にもっと高い意識を持たせる必要がある。	49	2.7	2.8
基礎学力の充実	授業尊重態度の育成	ベル着を厳守し、授業に臨む態勢を身につけさせる。授業中の活動や板書の書き取りなど積極的に授業に参加させる。予習・復習の大切さを理解させ、理解の向上に努める。	遅刻する生徒は少ないが、授業の準備が十分できていない生徒が多い。授業中はしっかりと活動できている。作業だけでなく考える力をつけさせたい。家庭学習の習慣がほとんどないため、進路確保に向け30分でもいいので毎日勉強する習慣をつけさせたい。	50	2.7	2.8	
	課題や提出物の徹底	課題や提出物の期限厳守、取り組み姿勢を育てる。	ほとんどできていない生徒が数名いる。徐々に提出率が悪くなっている。全員が期限厳守で提出できるように指導を継続していく。	51	2.6	2.8	
	小テストへの積極的な取り組み	小テストに積極的に取り組み、地道な努力の大切さを実感させる。	再テスト指導では当初とはやり方を変えて指導してきた。合格する生徒が少ない。休み時間など少しの時間でも勉強をさせて合格者を増やしたい。	52	2.4	2.4	
主体性と他者を尊重する姿勢の育成	学校行事への主体的な参加	学校行事に主体的に取り組み、積極性や協調性を育てる。	体育大会ではそれぞれが役割を果たし、積極的に参加した。文化祭の準備とインターシップとの時期が重なることもあり、準備に苦労した。2年生のステージ発表は時間がかかるので、もう少し早めに準備する必要があった。	53	3.1	3.0	
		修学旅行を通じ国際理解力や人権意識の向上を図る。	現地高校生との交流を通して、コミュニケーションをとることの楽しさと難しさが学べた。大変有意義な時間が過ごせた。	54		3.3	
	地域貢献活動への積極的な参加	ボランティア活動の積極的な参加を促し、社会貢献の態度を育成する。	ボランティア活動では積極的に参加できた。しかし、1度も参加していない生徒が数名いる。3年生では全員参加を促したい。	55	2.9	2.8	
個に応じた指導	生徒理解	こまめに個人面談などを行い、生徒の状況把握を心掛ける。	生徒の状況把握はできてきている。しかし、常に状況が変化するので、気になる生徒への対応を早くしていきたい。	56	3.1	3.0	
	自己肯定感の育成	自主性と責任を意識させ、実際の行動と経験を通して成長と自信を引き出す指導をする。	成功体験を多くさせることで積極性が生まれる。自ら行動できる生徒が少ないので、どんなことにも積極的に参加するように促していきたい。	57	3	3.0	
	保護者との連携	三者面談や家庭連絡を通して情報を共有し、連携を深めるように努める。	問題のある生徒とは家庭と連絡を取り情報の共有ができた。	58	3.1	3.1	
	進路意識の向上	個人面談や三者面談、各授業を通して個々の進路意識の向上に努める。	進路への意識向上はあまり出来ていない。HRなどでもう少し将来について考えさせるような話が必要であった。	59	2.9	2.9	

領域	評価観点	評価項目	実践目標 (チェックポイント)	成果と課題	項目	中間評価	最終評価
3学年	基本的な生活習慣の確立と責任感の育成	規範意識の向上	挨拶、服装、言葉遣い、マナー等を身につけさせる。	〇意識が向上している生徒が増えている。一部の生徒に挨拶やマナーで課題が残った。	60	2.9	2.9
		公共心の育成	清掃や分別を確実に実行し、公共心と責任感を育てる。	〇自分の清掃分担は責任を持って行うことができた。分別の意識も向上した。	61	2.8	2.9
		生活習慣の確立	校則、時間、期限を守らせ、社会の一員としての責任感を持たせる。	〇ほとんどの生徒は遅刻することなく登校できた。提出物の期限では課題を残した。	62	2.9	2.9
進路目標の達成	進路指導部との連携	進路ガイダンス・模擬面接・進路補習を通して意識向上を図る。進路情報の提供および、進路決定に向けたアドバイスをを行う。	〇個人差はあったが、全員自分の進路に対して責任を持ち、進路決定に向けて行動できた。〇部と学年が連携して指導できた。全ての生徒が進路目標を定めて行動できた。	63	3.1	3.1	
	学力養成	ベル着を厳守し、授業に臨む態勢を身につけさせる。授業に積極的に取り組み、基礎学力を定着させる。	〇授業遅刻はほとんどない。忘れ物も少なく、最低限のことはできた。〇活動には取り組んでいるが、積極性や学力の定着には課題が残った。	64	3	2.9	

		小テストや課題に主体的に取り組み、学習習慣を身につけさせる。	○事前に勉強して小テストに臨む生徒は限られている。課題提出や学習習慣の確立は不十分であった。			
	資格取得の推進	学力や進路に応じた資格取得を推進する。	○目標を定め、資格取得に向けて行動できた生徒は一部にとどまった。	65	2.8	2.8
主体性と他者を尊重する姿勢の育成	学校行事への主体的な参加	学校行事に主体的に取り組み、積極性や協調性を育てる。	○体育大会や文化祭ではクラスの力を十分に発揮し、充実した活動が行えた。	66	3.5	3.5
	地域貢献活動への積極的参加	ボランティア活動の積極的参加を促し、社会貢献の態度を育成する。	○夏休みを中心に積極的に活動した生徒が多く、内面の成長につながった。	67	3.3	3.2
個に応じた指導	生徒理解	こまめに個人面談などを行い、個に応じた指導を行う。	○進路を中心に個別に面談を行い、生徒理解に努めた。	68	3.2	3.3
	保護者との連携	三者面談や家庭連絡を通して情報を共有し、進路実現に向けた協力体制を作る。	○三者面談や家庭連絡を通して情報共有し、家庭との連携を深めることができた。	69	3.3	3.1